

## 市立三次中央病院 消化器内科後期研修プログラム

### 一般目標

- (1) 消化器疾患全般にわたり、基礎的なことから専門的な技術を学び、研修終了時には、診療、検査、臨床研究のいずれにおいても消化器内科医として自立して判断、行動できることを目標とする。入院患者、外来患者の診療を通じて、消化器疾患全体の病態生理と治療を学んでいく。
- (2) 当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会認定施設であり、学会認定指導医の下専門医の資格取得を目指し、資格取得に必要とされる疾患を研修する。

### 行動目標

#### 1年次目標

外来診療(週1回)と入院患者担当医となる。消化器疾患全般の診断、病態生理、治療を学ぶ。内視鏡検査、腹部超音波検査を習得する。

CT, MRI の読影を習得する。

指導医の下で ERCP, 経皮的処置 (PTCD, RFA), 腹部血管造影の手技を習得する。

#### 2年次目標

日常診療はスタッフと同様に行う。

指導医の下で ERCP, 経皮的処置 (PTCD, RFA), 腹部血管造影の手技を習得する。

ESD をはじめとする間欠的内視鏡手技の技術を行う。

内科学会認定医資格取得を目指す。

#### 3年次目標

日常診療に加え、研修医やジュニアレジデントの指導を行う。

### 消化器内科専門・先進技術習得

3年計画で次の診療技術を経験・取得することを目標とします。

食道疾患：内視鏡的食道粘膜切除術 (EMR)・剥離術 (ESD), 各種食道狭窄拡張術

胃十二指腸疾患：内視鏡的胃粘膜切除術 (EMR), 剥離術 (ESD), 止血術

小腸・大腸疾患：消化管造影 (小腸透視, 注腸), 内視鏡的大腸粘膜切除術 (EMR), 剥離術 (ESD)

肝胆膵疾患：

内視鏡関連技術	胃食道静脈瘤治療 (EIS, EVL, APC)
超音波関連技術	RFA, PTCD, PTGBD
ERCP 関連技術	膵管・胆管造影, 総胆管結石採石術, 胆道・膵管ドレナージ
血管造影関連技術	腹部血管造影, TACE

## 指導体制

### (1) 指導責任者

中西敏夫（院長） 臨床経験 38 年

日本内科学会認定医，日本消化器病学会指導医・専門医，日本肝臓学会専門医・指導医

平田 研（副院長） 臨床経験 24 年

日本内科学会認定医，日本消化器病学会専門医，日本消化器内視鏡学会指導医

### (2) 指導医

濱田敏秀 臨床経験 15 年，自病協新医師臨床研修指導医養成講習会修了

日本内科学会認定内科医，日本超音波医学会専門医，日本消化器病学会専門医，

日本消化器内視鏡学会専門医

向井伸一 臨床経験 13 年

日本内科学会認定医，日本消化器内視鏡学会専門医，日本消化器病学会専門医，

日本がん治療学会

野中裕広 臨床経験 13 年

日本内科学会認定医，日本消化器内視鏡学会専門医，日本消化器病学会専門医

趙成人 臨床経験 12 年

日本内科学会認定医，日本消化器内視鏡学会専門医，日本消化器病学会専門医

在籍レジデント数：3 名（H22 年 3 月現在）

青山大輝（臨床経験 5 年），清水晃典（臨床経験 3 年），松浦源太（臨床経験 3 年）

## 研修内容（週間スケジュール）

基本的には消化器内科単科での研修である。

午前：下記スケジュールに加え，週 1 回外来業務も行う。

午後：内視鏡治療（EMR，ESD など），ERCP，腹部血管造影等の処置を指導医の下で行う。

	月	火	水	木	金
午前	内視鏡検査（上部，下部） 超音波検査（ルーチン，造影）				
午後	内視鏡治療（EMR，ESD） ERCP，PTCD，腹部血管造影，RFA，静脈瘤硬化療法など				
17:00～		手術症例カンファレンス 内視鏡読影会		症例検討会	胃癌術後症例レビュー

カンファレンス他：内視鏡読影会（毎週火曜日），症例検討会（毎週木曜日）があり，外科・病理医との合同カンファレンス（手術症例カンファレンス，胃癌術後症例レビュー）も行っている。

活動実績（平成 21 年 1 月～平成 21 年 12 月）

1, 内視鏡関連

上部消化管内視鏡検査 3007 例

下部消化管内視鏡検査 1316 例

ERCP 200 例

EMR 上部 12 例, 下部 195 例

ESD 上部 40 例, 下部 15 例

EIS, EVL 15 例

超音波内視鏡 上部 106 例, 下部 12 例

2, 超音波関連

腹部超音波検査 3582 例

肝生検（腫瘍生検を含む）8 例

PTCD, PTGBD 約 30 例

経皮肝癌治療 10 例

3, 血管造影

TACE 70 例

IVR 止血術 2 例

膵炎動注療法 2 例

処遇

勤務：週 5 日間勤務

勤務時間：8:30～17:15（平成 22 年 3 月 31 日まで），8:30～17:00（平成 22 年 4 月 1 日から）

日当直回数：月 1～4 回（月平均 2.7 回）

休日：土・日曜日，祝日，年末年始

休暇：年休 20 日，夏期休暇 3 日，リフレッシュ休暇 2 日

身分：嘱託職員

給与：3 年目 月額 348,000 円，4 年目 月額 375,000 円，5 年目 月額 397,000 円

手当：期末・勤勉手当（給与月額 3.5 月分），日当直手当 20,000 円/回，時間外勤務手当

扶養手当 配偶者 13,000 円，子等 6,500 円，住宅手当 最高 27,000 円

通勤手当 交通機関利用者最高支給額 55,000 円

交通用具利用者 2km 以上の者 2,000 円～24,500 円

各種保険：社会保険・厚生年金，雇用保険・労災保険

宿舎：医師住宅あり

学会出張支援あり

関連学会の施設認定状況

日本内科学会認定医指導教育関連病院（指導医 1 名，専門医 3 名）

日本消化器病学会認定医制度認定施設（指導医 1 名，専門医 6 名）

日本内視鏡学会指導施設（指導医 1 名，専門医 4 名）

現在在任中の後期研修医による学術関連実績

学会報告

松浦源太（臨床経験 3 年）

稀な形態を呈した胃悪性リンパ腫の一例

広島備北地区消化器病研究会（H21 年，三次市）

清水晃典（臨床経験 3 年）

閉塞性腸炎発症を契機に発見され腸管切除を必要とした腸管子宮内膜症の 1 例

第92回日本消化器病学会中国支部例会（H21年11月28日，広島国際会議場）

青山大輝（臨床経験 5 年）

当院におけるダブルバルーン内視鏡，シングルバルーン内視鏡の使用経験

第92回日本消化器病学会中国支部例会（H21年11月28日，広島国際会議場）

過形成性ポリープに発生した早期胃癌の一例

第 101 回日本消化器内視鏡学会中国地方会（H20 年 12 月 7 日，米子）

バンコマイシン内服治療に抵抗した偽膜性腸炎の 1 例

第 75 回日本消化器内視鏡学会総会（H20 年 5 月 25 日，パシフィコ横浜）

## 施設の特徴とアピールポイント

当院は、広島県北における地域の中核病院としてのみならず、島根県南地域、岡山県北地域をも含めた広域の救急医療・2—2.5次医療機関としての中心的役割を担っています。平成18年には、地域がん診療連携拠点病院に指定されました。21世紀に対応した病院として機能・設備を整えながら、疾病の予防から治療そして急性期リハビリまでの役割を果たす総合医療センターとして地域医療に貢献し、また病診連携・病病連携を推進する中心的な役割を演じながら、地域完結型の医療の充実・完成に向かって努力しております。

消化器内科では扱う疾患もさることながら習得すべき手技が数多くあります。当院では急性期、慢性期の消化器症例を数多く経験でき、身体診察、画像検査、内視鏡検査など、消化器内科医として基本的な知識と技術を3年間の後期研修で十分習得できます。また、指導的立場のスタッフがみな若く、機動力を武器に日々経験するあらゆる疾患と立ち向かっております。中西院長の大きな懐に甘え、大船に乗った気持ちでやりたいことを積極的に実行に移せることが当科の売りです。消化器内科医としての診療技術・手技を数多くかつ偏り無く経験でき、一通り経験したい者にとってはうってつけの施設であると自負しております。